

小学校における防災教育推進に向けての一提言

－クロスカリキュラムへの試み－

義務教育研修課 主任指導主事兼課長 藤永 峯子 指導主事 池本 忠行
指導主事 古田 猛志 指導主事 細見 悟
研修員 山城 芳郎 指導主事 小林 宏
研修員 森本 寿文 指導主事 松尾 光明
指導主事 古田 昇

要旨

防災教育は、「防災リテラシー」を培うことが基本的なねらいであるが、本県では先の阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、人間としての在り方・生き方に基づく「新たな防災教育」の推進を目指している。学校では、この教育を推進するために、教育活動全体において横断的・総合的な指導に取り組むことが必要である。

本研究では、クロスカリキュラムに基づく防災教育の取組が各学校で効果的に行えるよう、小学校高学年における学習構想表並びに指導計画例を作成した。また、これらについては、兵庫県教育委員会が作成した防災教育副読本の活用も含めて考えた。

はじめに

1995年（平成7年）1月17日未明に、淡路島北部を震源地として発生した兵庫県南部地震は、未曾有の被害をもたらした。

震災から2年を経て、阪神・淡路間では復興への努力が続けられているが、今なおその傷跡は残っている。また、震災の記憶が遠のきつつある現在、被災地と被災地以外の人々の間では、震災に対する受け止め方に差があることも事実である。

防災教育においては、いつ、いかなる場所で遭遇するかも知れない自然災害や人為的な災害の全てに対して、的確な判断の下に沉着冷静に対処し、身近な被害を最小限に食い止めるための手だてについて考えることのできる能力を培うことが大切である。

我々は大震災の記憶を風化させることなく、人間としての在り方・生き方を考えさせる教育を推進していくための「新たな防災教育」に取り組んでいかなければならない。

1 研究テーマの設定について

防災教育の重要性については、国・県の提言や報告等に詳しく述べられているとおりである。

県下の各地域や学校では、それらを踏まえ、今回の

震災から得た貴重な経験や教訓を「新たな防災教育」に生かすため、様々な取組を行っている。

文部省は、「児童等が自然災害の発生メカニズム、地域の自然環境や過去の災害、防災体制の仕組みなどをよく理解し、災害時における危機を認識して、日常的な備えを行うとともに、的確な判断の下に自らの安全を確保するための行動を迅速にとれる能力¹⁾」を「防災リテラシー」と規定し、防災教育をとおして培うべきものとしている。

本県では、このような災害の原因や発生メカニズム等の科学的知識や能力の獲得にとどまらず、「生命への尊厳の念」「助け合いや思いやり、ボランティア精神等に根ざす共生の心」など、人間としての在り方・生き方にかかわる内容についても、「新たな防災教育」の内容と考えている。

21世紀に生きる子どもたちに、自己実現を目指す「生きる力」を培うという観点からも、教科の枠組みを越えた学校教育活動全体における防災教育への取組が求められているのである。

そこで、本研究では、防災教育を教育課程に明確に位置付けるとともに、体系的且つ計画的に防災教育を行うことができるよう、防災教育推進のためのクロス

カリキュラム化を試みた。

2 防災教育とクロスカリキュラム

(1) 防災教育のねらい

防災教育のねらいについては、平成8年の文部省「学校等の防災体制の充実に関する調査研究協力者会議」の『学校等の防災体制の充実について（第二次報告）』（以下、「第二次報告」と略）に、以下の3点が明示されている²⁾。

- 1 災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。
- 2 災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。
- 3 自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。

防災教育のねらいは、上記の第二次報告を基本とし、本県の「防災教育推進協議会」が示した人間教育を基盤とする「新たな防災教育」のねらい³⁾を、本研究の「防災教育のねらい」とした。

<防災教育のねらい>

- 児童生徒が、災害時に自他の生命を守るのに必要な事項について理解を深めさせ、とっさに適切な行動ができる防災リテラシーの育成を図る。
- 地域の特性を踏まえた教材の発掘や作成、活用を図り、安全な都市づくりや地域の自然と災害について理解を深める。
- 体験の機会等を工夫しながら、助け合いの心や思いやりの心を根づかせ、生きる力を育む。
- ボランティアの理念を学び実践を深め、人間としての在り方・生き方の一つとしての意識を高める。

(2) クロスカリキュラムの必要性

児童等に人間教育を基盤とした防災リテラシーを身に付けさせるためには、特定の教科による取組だけでは不十分である。そのため、各教科、道徳及び特別活動（以下、「各教科等」と略）の内容を関連させながら、防災教育が体系的・計画的に推進されるよう配慮することが重要になってくる。また、その実践の成果を絶えず点検・評価し、体系化された指導計画にフィードバックすることが必要である。このことは、第二次報告の《防災教育の具体的な進め方》の項に²⁾、

- ・学習指導要領や教科書等に示されている防災教育の指導内容を整理し、学校教育活動全体を通じて防災教育を行うための指導計画を作成する。
- ・防災教育のための指導計画、指導方法、指導の成果及び家庭、地域社会との連携について評価し、改善しながら指導を進める。

と示されている。

また、第15期中央教育審議会『第一次答申』でも、「子供たちに[生きる力]をはぐくんでいくためには、言うまでもなく、各教科、道徳、特別活動などのそれぞれの指導に当たって様々な工夫をこらした活動を展開したり、各教科等間の連携を図った指導を行うなど様々な試みを進めることが重要であるが、[生きる力]が全人的な力であるということを踏まえると、横断的・総合的な指導を一層推進し得るような新たな手だてを講じて、豊かに学習活動を展開していくことが極めて有効であると考えられる⁴⁾」と述べられている。

したがって、防災教育を推進するためには、学校教育活動全体において、横断的・総合的な指導への取組が必要であると考えた。

(3) 学習指導要領の防災教育にかかわる指導内容

防災教育のクロスカリキュラムに基づく指導計画等を作成するためには、第二次報告の《防災教育の具体的な進め方》に示されているように、まず、学習指導要領の防災教育にかかわる指導内容を点検・整理することが必要である。

そこで、小学校学習指導要領から、各教科等について、防災教育にかかわる指導内容を抜粋した（表1）。

表1 小学校学習指導要領に見る防災教育にかかわる指導内容（抜粋）

教 科	<p><国語科></p> <p>第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 3 教材における話題や題材選定の観点</p> <p>(3) 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>(4) 科学的、論理的な見方や考え方を育て、視野を広げるのに役立つこと。</p> <p>(5) 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。</p> <p>(6) 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。</p> <p>(7) 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。</p> <p>(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。</p>
	<p><社会科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会における人々の健康や安全を守るための諸活動 ・自然環境としての地形や気候などの概要及び特色と人々の生活 ・運輸、通信などの産業の現状と国民生活とのかかわり
	<p><理科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地面を流れる水や川の様子、流水の働きや自然界の水の変化 ・天気の変化や気象現象の規則性 ・地層や岩石、土地をつくっている物の特徴や土地のでき方
	<p><生活科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と地域社会や自然とのかかわり ・集団や社会の一員としての自分の役割や行動の仕方
	<p><家庭科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い ・住居の働きと快適で安全な住まい方の工夫
	<p><体育科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康で安全な生活の仕方や事故等によるけがの防止
道 徳	特 別 活 動
<p>(1) 主として自分自身に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に気を付け、規則正しい生活をする。 ・節度を守り節制に心掛ける。 ・希望と勇気をもってくじけないで努力する。 <p>(2) 主として他の人とかかわりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。 ・日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝するとともに、生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。 <p>(3) 主として自然や崇高なものとかかわりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然のすばらしさや不思議さ、偉大さを知る。 ・生命がかけがえないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 ・美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつ。 <p>(4) 主として集団や社会とかかわりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚するとともに、協力して主体的に責任を果たす。 ・公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切に、進んで義務を果たすようにする。 ・働くことの意義を理解するとともに、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つように努める。 ・父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つようにする。 	<p>A 学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること ・望ましい人間関係の育成、健康で安全な生活態度の形成 <p>B 児童会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の充実と向上のために諸問題を話し合い、協力してその解決を図る活動 <p>C クラブ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主性、社会性の涵養と個性の伸長 <p>D 学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動 <健康安全・体育的行事> 安全な行動や規律ある集団行動の体得 責任感や連帯感の涵養 <遠足・集団宿泊的行事> 集団生活や公衆道徳などについての望ましい体験 <勤労生産・奉仕的行事> 勤労の尊さや生産の喜びの体得 社会奉仕の精神を涵養する体験

表2 防災教育のための領域並びに具体的目標

領域	ねらい	学習対象	小学校 低学年	小学校 高学年
1 災害と地球科学	<ul style="list-style-type: none"> ○災害の種類やその特徴を知り、災害に対する危機意識を高めること。 ○自然災害が発生するメカニズムを、地球科学を通して理解し、災害への関心をもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然現象 <ul style="list-style-type: none"> ・大地、気象、海洋 ○自然災害 <ul style="list-style-type: none"> ・暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火等による被害 ○地域の自然環境の特徴 ○過去の災害事例 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の仕組みや自分たちの生活とのかかわりについて考える。 ・自然現象によってもたらされる被害の大きさや恐ろしさを知る。 ・身近な地域の自然環境に関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大地の動きや天気の変化に関心を持ち、その特徴や規則性について調べることができる。 ・地域や日本の自然環境と災害とのかかわりについて理解し、災害に対する危機意識を高める。
2 災害の予防と対策	<ul style="list-style-type: none"> ○災害を未然に防止したり、災害時の被害を最小限に食い止めるための様々な取組を理解すること。 ○身の回りの危険箇所や防災設備に関心を持ち、防災への心構えや態度を養うこと。 ○災害から自らの生命を守るために必要な知識や行動の仕方を身に付けること。 ○災害時に、安全に行動できる防災能力の育成を図ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○防災体制と防災対策 ○防災訓練 ○安全な町づくり ○社会的・人為的な事故災害 ○危険箇所 ○学校のはたらき ○救急法と応急処置 ○情報収集 ○二次的災害の防止 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な生活は、様々な施設や人々の協力によって支えられていることに気づく。 ・身の回りの危険箇所を知り、けがや事故を防ぐために、安全に遊んだり過ごしたりしようとする。 ・日常生活での安全を保つための約束やきまりを守り、安全に行動できるようにする。 ・防災訓練等に進んで参加し、安全に行動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会における人々の健康や安全を守るための諸活動、国や県等の関係機関の働きについて理解する。 ・地域の人々が安全に暮らすことのできる町づくりについて考える。 ・日常生活の中に潜んでいる危険について考え、安全に行動することができる。 ・災害時における情報の重要性を理解し、必要な情報を迅速に収集することができる。 ・防災訓練等をおし、二次的な災害を防ぐための行動の仕方を身に付ける。
3 人間としての生き方	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい地域社会を築くために自分の役割を自覚し、実践していこうとする態度を養うこと。 ○自他の生命を尊重するとともに、他の人々の思いや考えを理解し、共に生きようとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生命の尊重 ○自然への畏敬の念 ○自他の役割と責任 ○人間らしい心のふれあい ○ボランティア など 	<ul style="list-style-type: none"> ・命の尊さを知り、自然や動植物を大切にしようとする。 ・身の回りの人々に感謝するとともに、みんなを思いやり、誰にでも親切にすることができる。 ・日常生活の様々な体験をおとして、お互いに協力し合うことの大切さに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする。 ・身近な集団や地域社会の中で自分の役割を自覚し協力することができる。 ・社会に奉仕する喜びを知り、ボランティア活動等に、進んで取り組もうとする。

(4) 防災教育の領域と具体的目標等の設定

① 領域の設定

防災教育には、具体的な領域が設定されていない。そこで、意図的・計画的な指導を行うためには、防災教育のねらいに沿った領域設定が必要となる。また、この領域は、各学校において指導計画等を作成する際、全教師が共通理解を図るためにも必要である。

兵庫県教育委員会の『防災教育副読本 明日に生きる』（以下、「防災副読本」と略）は、各教科等の学習内容と発達段階との関連を図りながら、安全面や災害のメカニズム、ボランティア活動、心の教育等の観点から、防災教育の効果的な実践に資することを目的として作成されたものであり、以下の4つの柱から構成されている。

- ・人間としての在り方・生き方にせまる
- ・自然的・社会的要因をつかむ
- ・今後の防災体制を考える
- ・防災行動をとる

本研究では、上記の防災副読本の柱を基にして、神戸市の副読本『しあわせをはこぼう』、静岡県の中学生用地震防災学習テキスト『私たちの地震対策』等を参考に、以下の3つの領域を設定した。

<防災教育の領域>

- 領域1 災害と地球科学
- 領域2 災害の予防と対策
- 領域3 人間としての生き方

② 各領域における目標等の設定

設定した各領域には、全体的なねらいや具体的な指導目標等が必要である。

ここでは、各領域のねらいを「防災教育のねらい」に沿って定め、それぞれの学習対象を防災副読本や各種指導資料等に基づいて具体的に取り上げた。また、各領域には児童の発達段階に配慮して、低学年及び高学年の具体的目標を示した。これらをまとめたものが表2である。

これは、次に作成するクロスカリキュラムに基づく学習構想表等の基準になるものである。

(5) 関連教材の抽出

学習構想表等を作成するために、先に示した表1と表2により、防災教育に関連する教材を教科書と防災副読本から抽出した。また、参考として、国定教科書の内容調査も行った。

① 教科書における関連教材

防災教育に関連する教材の抽出については、第二次報告に示されている社会科、理科、生活科、家庭科、体育科（保健）の各教科並びに防災副読本を対象とした。それらをまとめたものが参考資料1・2である。国語科については、第二次報告の中に含まれていないため、表1中の「(4) 科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるのに役立つこと」を基に抽出し、参考資料1の欄外に記載した。

なお、抽出の際に使用した平成8年度用教科書については、県下の使用状況を考慮した。

② 国定教科書における関連教材

防災教育を効果的に推進していくためには、防災副読本や指導資料の活用をはじめ、地域素材を基にした視聴覚教材の作成・活用等、様々な方法が考えられるが、広く先人の防災に関する知識や智恵等を現代に生かすこともできると考えた。

そこで、小学校国定教科書の明治36年から昭和23年（第1期～第6期）までを調査対象として、防災教育にかかわる関連教材を抽出し、参考資料3として掲載した。

こうした取組としては、小學國語讀本の「稲むらの火」を津波対策啓発ビデオ教材として開発・活用している静岡県の例があげられる。なお、この「稲むらの火」を参考資料4（表記は、常用漢字体、新仮名づかいに改めた）として掲載した。

3 防災学習構想表と指導計画例の作成

(1) 学習テーマの設定

横断的・総合的な指導を考える場合、単に教科間の単元目標や内容に関連させるだけでは、児童自らが主体的に学ぼうとする意欲は生まれにくい。学習の初めから終わりまでを貫く、意欲・関心・態度を支えるための学習テーマを設定する必要がある。この学習テーマは、学年や発達段階、学校や地域の特性、さらには、使用する教材の有無等に応じて、多様に変化するもの

である。

そこで、このような考え方にに基づき、防災教育の学習テーマを「災害とわたしたち」とした。なお、学習テーマのねらいは、次のとおりである。

地域の自然と災害をもとに、災害の発生メカニズムを知り、安全な町づくりについて考えるとともに、災害時に安全な行動ができ、地域社会のために自分たちができることを実践しようとする。

これらを基に、本研究では、高学年における学習構想表等の作成に取り組むことにした。

(2) 主題の設定

「災害とわたしたち」のテーマに基づいて、表2の領域のねらいや目標、学習対象を踏まえ、効果的な学習が行えるように6つの具体的な主題を考えた。

これらの主題は、地球的規模の現象から地域的規模の現象へ、また、自分自身に関することから集団や社会とのかかわりに関することへとという2つの視点に立って設定した。

主 題	主な領域
① 災害のようす	〔領域1〕
② 災害が起こるしくみ	〔領域1〕
③ 災害とわたしたちの町	〔領域1〕
④ 災害から身を守る	〔領域2〕
⑤ 安全な町づくり	〔領域2〕
⑥ わたしたちにできること	〔領域3〕

(3) 防災学習構想表

学習構想表を作成するに当たっては、教科間等での指導内容の重複を避け、それらを有機的に関連づけながら効率的・効果的に防災学習が進められるよう留意した。

各主題は、それぞれを一つのまとまりのある題材として捉え、表2に基づくねらいと学習活動等を考えた。また、防災学習を計画する上での参考となるように、参考資料1・2における教科の単元と防災副読本の題材とを「関連教材」として記載した。

これらをまとめたものが高学年防災学習構想表である。

(4) 防災学習指導計画例

学習構想表に基づく具体的な防災学習の推進に当たっては、横断的・総合的な学習に取り組む必要がある。

そこで、学習構想表の主題に沿い、第5学年における防災学習指導計画例を作成した。

指導計画例には、各主題とそのねらいを示すとともに、その題材を取り扱うのに最も適切と考えられる各教科等の別、教材名、学習・活動内容をあげ、それ以外の関連教材は「その他」として記載した。この関連教材は、各題材の学習内容や活動内容の補充、深化、発展を図るために取り上げたものである。

なお、実際の学習指導に当たっては、各教科等の扱い方を次のように位置付けることにした。

教科については、各教科自体のもつ目標を尊重しながら、防災教育の視点に立った学習内容を有機的に関連づけ、その効果的な指導を図るようにする。

道徳については、各教科や特別活動とも関連させながら、防災副読本の各題材をもとに、人間としての在り方・生き方について認識を深めるとともに、実践への意欲や態度を養うようにする。

特別活動については、各主題に基づいた防災教育の視点に立つ内容を取り上げ、地域や学校における体験的な活動を展開するとともに、より広い視野に立った実践ができるようにする。

以上のような視点に立ち、クロスカリキュラムに基づく指導計画を作成することが大切である。

4 研究のまとめと今後の課題

人間教育の視点に立つ防災教育の推進において、早急に取り組まなければならないことは、防災副読本等の活用を含め、学校教育活動全体で総合的に取り組むことのできる防災教育のためのカリキュラムを確立することである。

そのため、本研究では、小学校における防災教育推進に向けての一提言として、クロスカリキュラムに基づく学習構想表並びに指導計画例を作成した。

しかし、クロスカリキュラムに基づく防災教育を実践的に進めるに当たっては、以下のような課題が残されている。

・各教科等や学年の枠を越えた弾力的なクロスカリキュラムへの取組を見据えて、教育課程をどのように編

成するか。

- ・クロスカリキュラムに基づく学習の評価にどう取り組むか。

今後、各学校や関係機関とも連携しながら、これらの課題の解決に向けた研究を続けていきたい。

おわりに

「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉がある。我々は、ふだんから防災の備えを整備・充実させるとともに、今回の大地震がもたらした未曾有の被害を忘れることなく、多くの反省や教訓を生かし、あらゆる災害を予測しての「新たな防災教育」を推進しなければならない。

各学校において、計画的・組織的に防災教育を推進していくために、今回作成した学習構想表や指導計画例を参考にし、実践研究を深めていただくことを期待している。

最後に、本研究に対し、ご協力いただいた方々に深く感謝し、お礼を申し上げます。

引用文献

- 1) 学校等の防災体制の充実に関する調査研究協力者会議『学校等の防災体制の充実について（第一次報告）』文部省（1995）
- 2) 学校等の防災体制の充実に関する調査研究協力者会議『学校等の防災体制の充実について（第二次報告）』文部省（1996）
- 3) 兵庫県／防災教育推進協議会編『学校における新たな防災教育の推進をめざして』（1996）
- 4) 第15期中央教育審議会第一次答申『21世紀を展望した我が国の教育の在り方について－子供に〔生きる力〕と〔ゆとり〕を－』文部省（1996）

参考文献

- ・兵庫県／防災教育検討委員会編『兵庫の教育の復興に向けて（提言）』（1995）
- ・山本政男編『教職研修総合特集（No.127）学校防災読本』教育開発研究所（1996）
- ・兵庫県教育委員会編集・発行『新たな防災教育の推進／兵庫の教育の復興を目指して－2年目の取組－』（1997）

- ・文部省『小学校学習指導要領』大蔵省印刷局（1989）
- ・文部省『小学校安全指導の手引（改訂版）』日本学校健康会（1983）
- ・兵庫県教育委員会編集・発行『防災教育副読本（小学校1・2・3年生用）あすに生きる □阪神・淡路大震災から学ぶ』『防災教育副読本（小学校4・5・6年生用）明日に生きる □阪神・淡路大震災から学ぶ』（1997）
- ・神戸市総合教育センター研究報告『第300号 震災をふまえた神戸の総合学習のカリキュラム開発（I）－震災体験を生かす防災教育のあり方を求めて－』神戸市総合教育センター（1996）
- ・静岡県総務部地震対策課編集発行、静岡県教育委員会義務教育課監修『－中学生用地震防災学習テキスト－私たちの地震対策』（1996）
- ・高階玲治編『実践 クロスカリキュラム 横断的・総合的学習の実現に向けて』図書文化（1996）

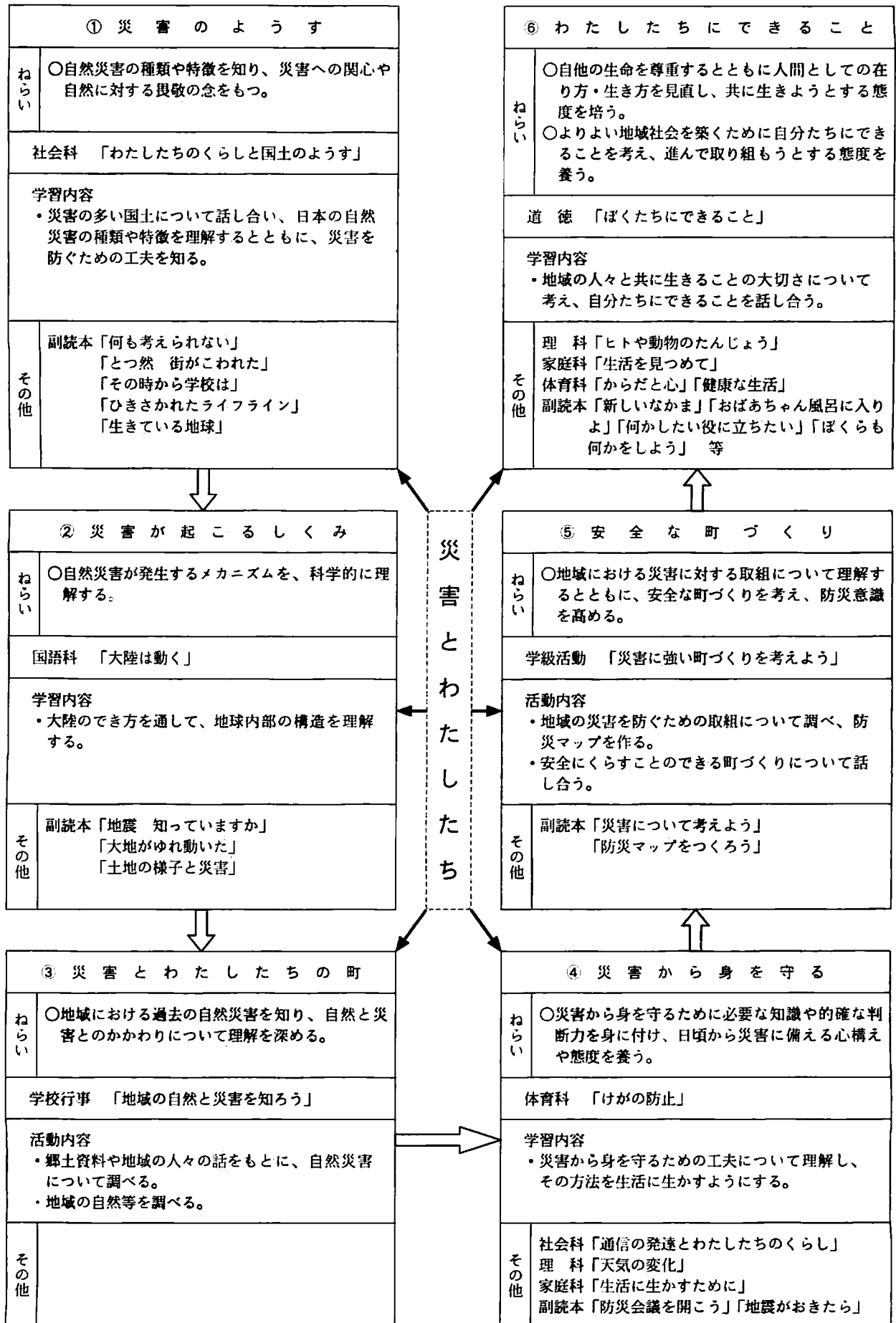
高学年防災学習構想表

「災害とわたしたち」

主題	ねらい	学習活動等	関連教材
① 災害のようす	○ 自然災害の種類や特徴を知り、災害への関心や自然に対する畏敬の念をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害について話し合う。 ・日本や世界の様々な災害について調べる。 ・災害の種類や特徴を調べる。 ・災害状況をまとめる。 	<p>5社 「わたしたちのくらしと国土のようす」</p> <hr/> <p>防災副読本</p> <p>「何も考えられない」「とつ然街がこわれた」</p> <p>「その時から学校は」</p> <p>「ひきさかれたライフライン」</p> <p>「生きている地球」</p>
② 災害が起るしくみ	○ 自然災害が発生するメカニズムを科学的に理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国土の特徴と災害とのかかわりについて調べる。 ・自然災害にかかわる事物や現象について観察・実験する。 ・地震、台風、火山活動等のメカニズムを調べる。 ・映像資料やコンピュータ・シミュレーション等を効果的に活用する。 ・気象観測や気象データをもとに、災害を引き起こす天気の特徴をまとめる。 ・地震計等のしくみを調べる。 	<p>4社 「さまざまな土地のくらしと国土のようす」</p> <p>3 わたしたちの国土</p> <p>4理 「流れる水のはたらき」</p> <p>1 川の流れをたどる</p> <p>2 川の流れとそのはたらき</p> <p>3 地面を流れる水のはたらき</p> <p>「水のたび」</p> <p>6理 「大地のでき方」</p> <hr/> <p>防災副読本</p> <p>「地震知っていますか」「大地がゆれ動いた」</p> <p>「土地の様子と災害」</p>
③ 災害とわたしたちの町	○ 地域における過去の自然災害を知り、自然と災害とのかかわりについて理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害について、自分の体験を話し合う。 ・郷土資料や地域の人々の話をもとに、過去の自然災害について調べる。 ・地域の災害の種類や特徴をまとめる。 ・自然現象にかかわる昔からの言い伝えについて調べる。 ・地域の露頭や川のようすを観察する。 ・地域の自然環境を調べる。 	<p>4社 「わたしたちの県」</p> <p>－兵庫のしぜんとくらし（副読本）</p>

<p>④ 災害から身を守る</p>	<p>○ 災害から身を守るために必要な知識や的確な判断力を身に付け、日頃から災害に備える心構えや態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時での安全な身の守り方を考える。 ・救急法や応急処置について学習する。 ・家庭や学校での災害への備えについて考える。 ・避難訓練や地域の防災訓練に参加する。 ・自然災害にかかわる現象を、起震車やコンピュータ・シミュレーション等により疑似体験する。 ・安全な器具の取り扱い方について学習する。 ・二次的な災害を防ぐための方法や行動について考える。 ・情報の大切さとその活用方法について考える。 ・インターネットを活用して、情報のやり取りを行う。 ・天気図等をもとに、天気の変化を予想する。 	<p>4社 「安全なくらしを守る」 4理 「物のかさと温度」 5社 「通信の発達とわたしたちのくらし」 5理 「天気の変化」 5家 「生活に生かすために」 5・6体 「けがの防止」 6理 「物の燃え方と空気」 6家 「よりよい生活のしかたをめざして」</p> <hr/> <p>防災副読本 「防災会議を開こう」「地震がおきたら」</p>
<p>⑤ 安全な町づくり</p>	<p>○ 地域における災害に対する取組について理解するとともに、安全な町づくりを考え、防災意識を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本各地の災害を防ぐ工夫について調べる。 ・災害を防ぐための国や市などの取組について調べる。 ・市役所の人から町づくりの取組について聞く。 ・地域の避難場所や避難経路について調べる。 ・地域の環境を見直し、防災マップを作る。 ・住民が安全に暮らすことのできる町づくりについて考える。 ・「わたしたちの安全な未来の町」の絵を描いたり、模型を作ったりする。 	<p>4社 「健康なくらしをささえる」 「さまざまな土地のくらしと国土のようす」 1 あたためる土地と寒い土地 2 高い土地とひくい土地 4理 「流れる水のはたらき」 4 川の流れとわたしたちのくらし 6社 「わたしたちの生活と政治」 1 わたしたちの願いと市や国の取り組み</p> <hr/> <p>防災副読本 「災害について考えよう」「防災マップをつくろう」</p>
<p>⑥ わたしたちができること</p>	<p>○ 自他の生命を尊重するとともに、人間としての在り方・生き方を見直し、共に生きようとする態度を培う。</p> <p>○ よりよい地域社会を築くために自分たちができることを考え、進んで取り組もうとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の支援やボランティア活動について話し合う。 ・地域の人々と共に生きる大切さについて考える。 ・家庭や学校における自分の役割を自覚し、自分たちができることを進んで実践する。 ・学校、家庭、地域で取り組めるボランティア活動や奉仕活動について話し合う。 ・土曜ふれあい学級等を通じて、地域の人々とのふれあいを深める。 	<p>5理 「ヒトや動物のたんじょう」 5家 「生活を見つめて」 5・6体 「からだと心」「健康な生活」 6社 「わたしたちの生活と政治」 4 わたしたちのくらしと憲法 「世界の平和と日本」 6家 「ふれあいのある生活をめざして」</p> <hr/> <p>防災副読本 「明日を信じて」「ぼくは一人じゃない」「お父さん」 「ともに支えあって」「12時にサイレンが響く中にひびいた」 「悲しみを乗り越えて」「新しいなかま」「おばあちゃん風呂に入りよ」 「わたしにとっての地震」「花と水」「何かしたい役に立ちたい」 「ぼくらも何かをしよう」「仮設住宅」「今日は青い日」</p>

防災学習指導計画例(第5学年)



参考資料 1

教科書における関連教材一覧表

社会科・理科・生活科

＜関連教材の選定について＞

関連教材の選定は、県内での教科書使用状況を考慮し、平成8年度小学校用社会科（大阪書籍）、理科（啓林館）、生活科（啓林館）の各教科書を参照しながら、学習指導要領及び表2「防災教育のための領域並びに具体的目標」を基準として行った。表中の単元（題材）名については大単元を「」、中単元を算用数字又は・で示し、頭に該当学年を付した。なお、国語科については、表1の「(4) 科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるのに役立つこと」に関連した内容のみを、参考として欄外に記載した。

領域	ねらい	学習対象	社会科 [大書]	理科 [啓林]	生活科 [啓林]
1 災害と地球科学	<ul style="list-style-type: none"> ○災害の種類やその特徴を知り、災害に対する危機意識を高めること。 ○自然災害が発生するメカニズムを、地球科学を通して理解し災害への関心をもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然現象 <ul style="list-style-type: none"> ・大地、気象、海洋 ○自然災害 <ul style="list-style-type: none"> ・暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火等による被害 ○地域の自然環境の特徴 ○過去の災害事例 <p>など</p>	<p>4年「わたしたちの県」 ・兵庫のしぜんとくらし（副読本）</p> <p>4年「さまざまな土地のくらしと国土のようす」 3. わたしたちの国土</p> <p>5年「わたしたちのくらしと国土のようす」 2. 森林資源と国土の保全</p>	<p>3年「土や石をしらべよう」 1. 土のようす</p> <p>4年「流れる水のはたらき」 1. 川の流れをたどる 2. 川の流れとそのはたらき 3. 地面を流れる水のはたらき</p> <p>4年「水たび」 1. すがたをかえる水 2. めぐる水</p> <p>6年「大地のでき方」 1. 火山のふん火と火成岩 2. 土地のつくりとようす 3. 地そうのでき方</p>	
2 災害の予防と対策	<ul style="list-style-type: none"> ○災害を未然に防止したり、災害時の被害を最小限に食い止めるための様々な取組を理解すること。 ○身の回りの危険箇所や防災設備に関心をもち、防災への心構えや態度を養うこと。 ○災害から自らの生命を守るために必要な知識や行動の仕方を身に付けること。 ○災害時に、安全に行動できる防災能力の育成を図ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○防災体制と防災対策 ○防災訓練 ○安全な町づくり ○社会的・人為的な事故災害 ○危険箇所 ○学校のはたらき ○救急法と応急処置 ○情報収集 ○二次的災害の防止 <p>など</p>	<p>3年「すみよい町づくり」 3. 市内にあるしせつ</p> <p>3年「わたしたちの市のようす」 1. 屋上でつくった絵地図 2. 校区のたんけん</p> <p>4年「健康なくらしをささえる」 2. 命とくらしをささえる水</p> <p>4年「安全なくらしを守る」 1. 火事をふせぐ 2. 交通事故から命を守る</p> <p>4年「さまざまな土地のくらしと国土のようす」 1. あたかい土地と寒い土地 2. 高い土地とひくい土地</p> <p>5年「通信の発達とわたしたちのくらし」 1. くらしにむすびつく情報 2. 情報の活用と伝達</p> <p>6年「わたしたちの生活と政治」 1. わたしたちの願いと市や国の取り組み</p>	<p>4年「流れる水のはたらき」 4. 川の流れとわたしたちのくらし</p> <p>4年「物のかさと温度」 ・アルコールランプの使い方</p> <p>5年「天気の変化」 1. 気象情報 2. 天気の観測と記録 3. 雲の動きと天気 4. わたしたちの天気予報</p> <p>6年「物の燃え方と空気」 ・ガスバーナーの使い方</p>	<p>1年「がっこうっていいな」 ・がっこうってどんなところかな ・がっこうのこと、いろいろみつけたよ ・がっこうのまわりをあるいてみよう</p> <p>2年「春の町をたんけんしよう」 ・たんけんにいこう ・町のこと、わかったよ</p> <p>2年「のりものにのろう」 ・じょうずにのれるかな</p>
3 人間としての生き方	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい地域社会を築くために、自分の役割を自覚し、実践していこうとする態度を養うこと。 ○自他の生命を尊重するとともに、他の人々の思いや考えを理解し、共に生きようとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生命の尊重 ○自然への畏敬の念 ○自他の役割と責任 ○人間らしい心のふれあい ○ボランティア <p>など</p>	<p>3年「すみよい町づくり」 1. みんなのためにはたらいている人びと</p> <p>6年「わたしたちの生活と政治」 4. わたしたちのくらしと憲法</p> <p>6年「世界の平和と日本」 1. 「国際連合（国連）のはたらき</p>	<p>5年「ヒトや動物のたんじょう」 2. ヒトのたんじょう</p>	<p>1年「がっこうっていいな」 ・みんなともだち</p> <p>1年「おおきくなったね」 ・がっこうのどうぶつ</p> <p>1年「うちのひとだいすき」 ・わたしにもできるよ</p> <p>2年「生きものひろばをひらこう」 ・だいにそだてよう</p> <p>2年「こんなに大きくなったよ」 ・みんな赤ちゃんだったよ ・こんなに大きくなったんだね</p>

【参考】 国語科 第1領域（災害と地球科学）：5年「大陸は動く」（光村図書）、第2領域（災害の予防と対策）：4年「森林と水」（学校図書）、4年「雷のあるくらし」（東京書籍）、6年「ブナの森は緑のダム」（日本書籍）

参考資料2

教科書における関連教材一覧表

家庭科・体育科(保健)・「防災副読本」

＜関連教材の選定について＞

関連教材の選定は、県内での教科書使用状況を考慮し、平成8年度小学校用家庭科(開隆堂)、体育科・保健(東京書籍)の各教科書を参照しながら、学習指導要領及び表2「防災教育のための領域並びに具体的目標」を基準として行った。表中の単元(題材)名については大単元を「」、中単元を算用数字又は・で示し、頭に該当学年を付した。なお、その他の領域については、道徳・特別活動の内容を含むべきであるが、「防災副読本」の効果的な活用を図るため、同副読本の教材のみを記載した。

領域	ねらい	学習対象	家庭科 [開隆]	体育科(保健) [東書]	防災教育副読本	
					小学1・2・3年生用	小学4・5・6年生用
1 災害と地球科学	<ul style="list-style-type: none"> ○災害の種類やその特徴を知り、災害に対する危機意識を高めること。 ○自然災害が発生するメカニズムを、地球科学を通して理解し災害への関心をもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然現象 <ul style="list-style-type: none"> ・大地、気象、海洋 ○自然災害 <ul style="list-style-type: none"> ・暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火等による被害 ○地域の自然環境の特徴 ○過去の災害事例 <p>など</p>			<p>小学1・2・3年生用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しんぞうが とまりそうだった ・ぼくの 町が なくなって しまった ・おふろに はいったよ ・水が でた ・大地しんが きた 	<p>小学4・5・6年生用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とつ然 街がこわれた ・その時から学校は ・ひきさかれたライフライン ・生きている地球 ・地震 していますか ・大地がゆれ動いた ・土地の様子と災害
2 災害の予防と対策	<ul style="list-style-type: none"> ○災害を未然に防止したり、災害時の被害を最小限に食い止めるための様々な取組を理解すること。 ○身の回りの危険箇所や防災設備に関心を持ち、防災への心構えや態度を養うこと。 ○災害から自らの生命を守るために必要な知識や行動の仕方を身に付けること。 ○災害時に、安全に行動できる防災能力の育成を図ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○防災体制と防災対策 ○防災訓練 ○安全な町づくり ○社会的・人為的な事故災害 ○危険箇所 ○学校のはたらき ○救急法と応急処置 ○情報収集 ○二次的災害の防止 <p>など</p>	<p>5年「生活に生かすために」</p> <ol style="list-style-type: none"> ふくろ作り <ul style="list-style-type: none"> ・アイロンをかけてしあげる 調理に使う燃料とこんろ <p>6年「よりよい生活のしかたをめざして」</p> <ol style="list-style-type: none"> 気候の変化と住まい方 	<p>5・6年「けがの防止」</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校生活でのけが 交通事故の原因と防止 家庭や地いきでのけがの防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたの まちは 大じょうぶ? ・ぐらっと くる 前に ・地しんが おきたら ・校区を 歩いてみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害について考えよう ・防災会議を開こう ・地震がおきたら ・防災マップをつくろう
3 人間としての生き方	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい地域社会を築くために、自分の役割を自覚し、実践していこうとする態度を養うこと。 ○自他の生命を尊重するとともに、他の人々の思いや考えを理解し、共に生きようとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生命の尊重 ○自然への畏敬の念 ○自他の役割と責任 ○人間らしい心のふれあい ○ボランティア <p>など</p>	<p>5年「生活を見つめて」</p> <ol style="list-style-type: none"> わたしたちと家庭生活 家庭の仕事とわたし <p>6年「ふれあいのある生活をめざして」</p> <ol style="list-style-type: none"> ふれあいのくふう 	<p>5・6年「からだと心」</p> <ol style="list-style-type: none"> 心の発達 思春期の心 <p>5・6年「健康な生活」</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地いきの活動と健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな 気もち ・とても かわかったよ ・わたしの シロ ・ありがとう ・おばあちゃん これ ・ひとつに なった ・元気で よかったね ・いつまでも わすれない ・ぼくの 車いす ・水くみ したよ ・ガスの 工事に きた お兄ちゃん ・春が きた 	<ul style="list-style-type: none"> ・明日を信じて ・何も考えられない ・ぼくは一人じゃない ・お父さん ・ともに支えあって ・12時にサイレンが町中にひびいた ・悲しみを乗り越えて ・新しいなかま ・おばあちゃん 風呂に入りよ ・わたしにとっての地震 ・花と水 ・何かしたい 役に立ちたい ・ぼくらも何かをしよう ・仮設住宅 ・今日は 青い日

参考資料3

国定教科書における関連教材一覧表

<関連教材の選定について>

関連教材の選定は、学習指導要領及び表2「防災教育のための領域並びに具体的目標」を基準に、明治36年から昭和23年までに発行された小学校国定教科書（第一期～第六期）を調査対象として行った。対象とした関連教科は、国語（讀本、國語讀本）、社会（地理、日本歴史・國史）、修身、理科、家庭（裁縫、家事）の各教科である。表中、教科書名は「」、単元名については大単元を○、中単元を・、小単元を算用数字で示した。

領域	ねらい	学習対象	国語科	社会科（地理）	理科
1 災害と地球科学	<ul style="list-style-type: none"> ○災害の種類やその特徴を知り、災害に対する危機意識を高めること。 ○自然災害が発生するメカニズムを、地球科学を通して理解し災害への関心をもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然現象 <ul style="list-style-type: none"> ・大地、気象、海洋 ○自然災害 <ul style="list-style-type: none"> ・暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火等による被害 ○地域の自然環境の特徴 ○過去の災害事例 など 	<ul style="list-style-type: none"> 「高等小學讀本 四」 ○第十二課 火山 	<ul style="list-style-type: none"> 「社会科小学校第六学年用 私達の生活四 気候と生活」 ○二、雨と雪 <ul style="list-style-type: none"> ・洪水 ・ひでり ○三、風 <ul style="list-style-type: none"> ・あらし ・風のひきおこす被害 ・風と火事 	<ul style="list-style-type: none"> 「小學理科新書 卷之三」 ○地熱 火山 温泉 地震 「新定理科書 卷之一」 ○第五章 土地の變化 「小學理科 卷一」 ○第二十九課 風 「尋常小學理科書 第六学年兒童用」 <ul style="list-style-type: none"> ○第二十 火山・火成岩 ○第二十一 流水の働 ○第二十二 水成岩・地層 「第5学年用 小学生の科学」 <ul style="list-style-type: none"> ○10. 天気はどのように変わるか <ul style="list-style-type: none"> ・あしたの天気 「第六学年用 小学生の科学」 <ul style="list-style-type: none"> ○20. 地球にはどんな変化があるか <ul style="list-style-type: none"> ・火山や温泉はどのようなものか ・地震はどのようにしておきるか <ol style="list-style-type: none"> 1. 地しんはどのようなものか 2. 地しんの起る場所と起るわけ
2 災害の予防と対策	<ul style="list-style-type: none"> ○災害を未然に防止したり、災害時の被害を最小限に食い止めるための様々な取組を理解すること。 ○身の回りの危険箇所や防災設備に関心をもち、防災への心構えや態度を養うこと。 ○災害から自らの生命を守るために必要な知識や行動の仕方を身に付けること。 ○災害時に、安全に行動できる防災能力の育成を図ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○防災体制と防災対策 ○防災訓練 ○安全な町づくり ○社会的・人為的な事故災害 ○危険箇所 ○学校のはたらき ○救急法と応急処置 ○情報収集 ○二次的災害の防止 など 	<ul style="list-style-type: none"> 「尋常小學讀本 五」 ○だい二十二 大水 「尋常小學讀本 卷八」 ○第十三 火事 ○第十四 電報 「尋常小學讀本 卷十」 ○第三課 保安林 「尋常小學讀本 卷十二」 ○第四課 天候豫報及び暴風警報 「高等小學讀本 三」 ○第二十課 天候豫報と警報 「小學國語讀本 卷六」 ○十八 火事 「初等科國語 二」 ○十三 火事 	<ul style="list-style-type: none"> 「社会科小学校第六学年用 私達の生活三 土地と人間」 ○二、川ぞいの土地 <ul style="list-style-type: none"> ・水のための工事 「社会科小学校第六学年用 私達の生活四 気候と生活」 ○二、雨と雪 <ul style="list-style-type: none"> ・水とたたかう人々 ・雪とたたかう人たち ○三、風 <ul style="list-style-type: none"> ・防風林 	<ul style="list-style-type: none"> 「第六学年用 小学生の科学」 ○20. 地球にはどんな変化があるか <ul style="list-style-type: none"> ・地震はどのようにしておきるか <ol style="list-style-type: none"> 3. 地しんの災害をどのようにして防ぐか
3 人間としての生き方	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい地域社会を築くために、自分の役割を自覚し、実践していこうとする態度を養うこと。 ○自他の生命を尊重するとともに、他の人々の思いや考えを理解し、共に生きようとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生命の尊重 ○自然への畏敬の念 ○自他の役割と責任 ○人間らしい心のふれあい ○ボランティア など 	<ul style="list-style-type: none"> 「尋常小學讀本 卷九」 ○第二十課 雨と風 「小學國語讀本 卷十」 ○第十 稲むらの火 (※ 参考資料4) 		

稲むらの火

「これは、ただ事でない。」

とつぶやきながら、五兵衛は家から出て来た。今の地震は、別に烈しいという程のものではなかった。しかし、長いゆったりとしたゆれ方と、うなるような地鳴りとは、老いた五兵衛に、今まで経験したことのない不気味なものであった。

五兵衛は、自分の家の庭から、心配げに下の村を見下した。村では、豊年を祝うよ

い祭の支度に心を取られて、さっきの地震には一向気がつかないものようである。村から海へ移した五兵衛の目は、忽ちそこに吸い付けられてしまった。風とは反対に波が沖へ沖へと動いて、見る見る海岸には、広い砂原や黒い岩底が現れてきた。

「大変だ。津波がやってくる来るに違いない。」と、五兵衛は思った。このままにしておいたら、四百の命が、村も共一のみによられてしまう。もう一刻も猶予は出来ない。

「よし。」

と叫んで、家へかけ込んだ五兵衛は、大きな松明を持って飛び出して来た。そこには、取り入れるばかりになっているたくさんの稲束が積んである。

「もったいないが、これで村中の命が救えるのだ。」

と、五兵衛は、いきなりその稲むらの一つに火を移した。風にあおられて、火の手がぱつと上がった。一つ又一つ、五兵衛は夢中で走った。こうして、自分の田のすべての稲むらに火をつけてしまうと、松明を捨てた。まるで失神したように、彼はそこに突っ立ったまま、沖の方を眺めていた。

日はすでに没して、あたりがだんだん薄暗くなって来た。稲むらの火は天をこがした。山寺では、この火を見て早鐘をつき出した。

「火事だ。庄屋さんの家だ。」と、村の若い者は、急いで山手へかけ出した。続いて、老人も、女も、子供も、若者の後を追うようにはかけ出した。

高台から見下している五兵衛の目には、それが蟻の歩みのように、もどかしく思われた。やっと二十人程の若者が、かけ上って来た。彼らは、すぐ火を消しにかかろう

とする。五兵衛は大声に言った。

「うっちゃっておけ。—— 大変だ。村中の人に来てもらうんだ。」

村中の人は、追々集まって来た。五兵衛は、後から後から上がって来る老幼男女を一人一人数えた。集まって来た人々は、もえている稲むらと五兵衛の顔を代わる代わる見くらべた。

その時、五兵衛は力一ぱいの声で叫んだ。

「見ろ。やって来たぞ。」

たそがれの薄明かりをすかして、五兵衛の指さす方を一同は見た。遠く海の端に、細い、暗い、一筋の線が見えた。その線は見る見る太くなった。広くなった。非常な速さで押し寄せて来た。

「津波だ。」

と、誰かが叫んだ。海水が、絶壁のように目の前に迫ったと思うと、山がのしかかって来たような重さと、百雷の一時に落ちたようなとどろきとを以て、陸にぶつかった。人々は、我を忘れて後へ飛び退いた。雲のように山手へ突進して来た水煙の外は、一時何物も見えなかった。

人々は、自分らの村の上を荒れ狂って通る白い恐ろしい海を見た。二度三度、村の上を海は進み又退いた。

高台では、しばらく何の話し声もなかった。一同は、波にめぐり取られてあとかたもなくなった村を、ただあきれて見下していた。

稲むらの火は、風にあおられて又もえ上がり、夕やみに包まれたあたりを明るくした。始めて我にかえった村人は、この火によって救われたのだと気がつく、無言のまま五兵衛の前にひざまづいてしまった。

〈小学校国定国語教科書より〉

—— 表記は、常用漢字体、新仮名づかいに改めた ——